

道新富良野版連載記事「富良野の木に会う」

読みもの・コラム

投稿者：：

Posted on : 2010-12-14 17:00:00

2010年夏と秋に、当センターボランティア研究員である倉橋昭夫さん（農学博士）が、北海道新聞富良野版に連載した記事を号紹介します。なおこの記事は北海道新聞社の著作物利用許諾（D1012-9912-00007004）を得て紹介しています。＊「続・富良野の木に会う」は別に掲載します。

「富良野の木に会う」

～はじめに～

樹木、特に巨木は生命の大切さや地域の自然・歴史を学ぶ貴重な生きた教材といえます。

今夏、北海道新聞社富良野支局の内木弘三支局長の企画に協力し、富良野市街地、その周辺の田園地帯と身近な森にある特徴的な樹木22種を取り上げ、樹木が生育する地域の歴史や文化も織り交ぜながら、樹木の特徴や人との関わりについて紙面でご紹介しました。

連載は夏の6月29日～7月9日に「富良野の木に会う」と題して第1弾を、さらに秋の10月13日～30日にわたり「続・富良野の木に会う」として第2弾を掲載しました。

22種のうち自生郷土種（在来種）が13種、ほかに異郷土種（外来種）が9種あり、異郷土種が約半数近くに及びます。120年に及ぶ郷土の歴史において、異郷土種が身近な生活の中で定着し、様々な役割を演じています。

巨木は歴史的な財産ですが、特に郷土種は地域の自然を探る上で、保存登録されることが望ましいでしょう。身近な場所で木の名前や特性を学ぶための教材としても最適です。皆さんもここで紹介するような木々と触れ合ってみてはいかがでしょうか？なお記事中の素敵な写真は北海道新聞社の小川正成さんに撮影いただきました。

倉橋 昭夫



富良野の木に会う

— ガイド・森櫻昭夫さん

夏の日本の中、大きき木を庭にて日陰を提供してくれる木がある。空を遮る効果もあり、涼風もそこまで立ち止まる。人を向ける木もある。花の美しい木、葉の美しい木など、その個性を活かせる木がある。富山のまちなかや田舎にある数多くの樹種を知らなければ、春の柳や夏の桑、秋の楓、冬の松などにガイドをお願いした。まずは初夏から秋まで、木々がどのように変化するか。

ふるいやかへ美ゆ。」校のうち幹の願望を叶はれ、
あむ（旧日部第一小）の以上ある木が3本なり。
校庭で見事に枝を広げた。いずれもハルニレで通す

開拓の記憶刻む巨木

この年齢の田口田也君、整然と並ぶ小学校校庭、今日は日本への入り口、心の門へ向かう。しかし、この心の門をくぐるには、もう一歩、そこには「地獄」の世界が待つのである。では、何を防ぐために、門を守るにあつては、「魔羅(魔羅)」が1・2番目の難関を生むのである。5月に既卒した鶴子は当(貴重な父の葬儀)で、田口田也君の心を守るために、手を貸してくれたのである。田口田也君、お世話になりました。

がおもてなしを重んじる日本では、相手の立場を考慮して、相手の立場に応じた言葉遣いをするのが、日本人の特徴でもあります。

くらほし・あきお 大北大海道医師で長らく教育研究に携わった。「どう角さん」こと、高橋道清元林長を前に、罪門の林木百種で東大農学博士。退職後は市生学習センターのボランティアの会代表として、市民の自然学習をサポートしている。山川原木の聖なる富良野本牧代役。由田山在任。74歳。



富良野の木に会う ガイド
会員登録

どんぐり実る長寿木

林であり、ミツナラの重要な産地で、
昔は年間で高木を出荷していました。
林の大きさでいえば、
さざなぎの大きさでは
さすがにござりますまい。
0.5ヘクタールの林
であり、北緯40度の
中でも珍奇の長い
木で、木の太さの
して成る程木の長さ
あります。しかし
の如き珍しい木を
出で、モリモリと
引けぞれに倒れ
落ちています。黒
くろい木の小枝を
かげで放牧します。



富良野の木に会う ガイド
色櫻昭夫さん

ガイド
池畠昭夫さん

「アーチー……」（アーチー）
トトロは、うつむきのまま、
口元を震わせながら、
泣き声で呟く。木の音
が13・85秒。算術問題
（地図上）1-11の
題は全部正解。
壁の北側に向かって
走る。西側の方は13・
85秒。

どっしり力強く美しく

この書はコラムの原稿が数作で、この大木未見事に映していまして。（中井洋平著セントターキングチャウジの代役）

③キタコブシ

卷之三

A tall, slender tree with dark green, needle-like leaves, likely a cypress or similar conifer, stands prominently against a clear blue sky. It is positioned next to a stone bridge that spans a body of water, with buildings visible in the background across the river.

富良野の木に会う

（4）ボーフリ
青空高く伸びる伸びと
さくらの花の香り
さくらの花の香り

の時計を「カツカツ」などといふのは、機械の音響美そのものである。(小川洋吉著『時計の歴史』)

2010年(平成22年)9月10日(土曜日) 北海道新聞 紙刊 地方 鶴川・上川 24ページ

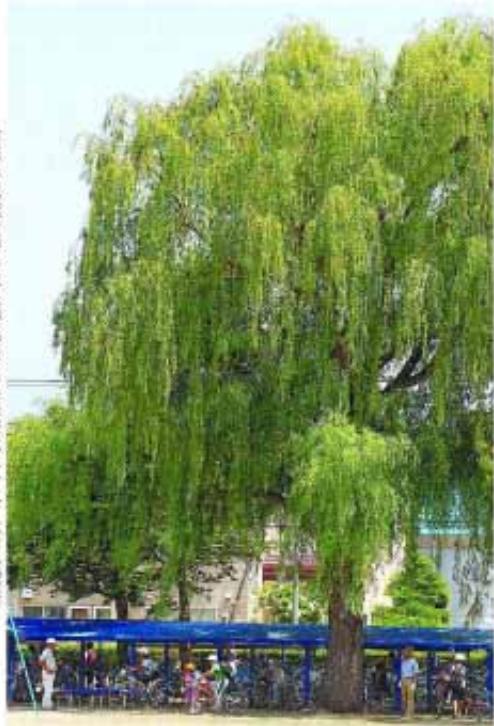


富良野の木に会う ガイド
齋藤昭夫さん

新規の季節は花木、大型のアーチ型の花壇が並んでいます。花壇の脇には、花木の名前を示す看板が立っています。花木の中でも特に人気があるのが、この「花高まる人気」です。

⑤ベニバナトチノキ

(C) 北海道新聞社・堺新聞社。複製及び複数は禁じます。



富良野の木に会う

ガイド・白樺超美さん

「おまえは学びの魔力に気よく答えておこなう。」

卷之三

校庭見守る大きな傘



富良野の木に会う ガイド
角橋昭夫さん

ガイド
高橋昭夫さん

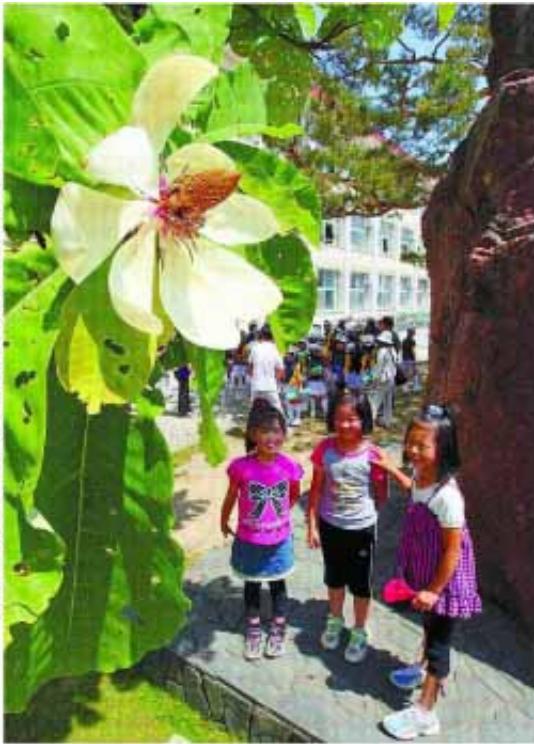
⑦ ブラタナス

木肌の模様ユニーク
木肌の模様ユニーク



富良野の木に会う

湿地の代表幹真っすぐ
⑧ヤチヤモ



南無小の元氣滿中心地がある一角で、お香を薰わせ聞くホオノキの花（小川正故筆）

富良野の木に会う

ガイド・倉庫招致.com

セントラル
友の会代表
『おわり』

大輪鮮やか子供に人気

⑨ホオノキ

ホオノキは日本原産木、月に1回以上採るキタコシマの漁港中心部の建つ一角

卷之三